

---

# 慈 恵

---



令和 5 年 No.85



# 冬

宗教法人 慈 恵 院

付属 多摩犬猫霊園

## 鑑賞

## 加藤耕山老師筆

## 「達磨」



福岡久留米梅林寺の三生軒  
 東海猷禪、香夢室東海晴禪兩  
 老師に参じて法を嗣いだ是々庵  
 加藤耕山老師（明治3年〜昭和  
 46年）には、明るくあたたかで  
 飄々としたダルマ画や書が遺  
 されている。59歳の時、東京西  
 多摩、秋川溪谷の荒寺に隠棲  
 し、“貧”の中で晩年まで打座、  
 作務、看經の修行三昧に明け暮  
 れた生活は、気骨の通った己事  
 究明の九十六年だった。  
 こちらのダルマ軸装は埼玉の  
 皎圓寺様より頂いたものです。



古くから女性に解放された室生寺  
 優美な伽藍に雅な仏たちが集う



太鼓橋から望む室生寺表門

一方、室生寺の根本資料である『一山年分度者奏状』によると、創建は奈良時代末

奈良県宇陀郡室生村に所在する、真言宗室生寺派大本山室生寺は「女人高野」の名で知られる。高野山が女人禁制なのに対し、古くから女性に開放された名刹である。山号を「室生山」の文字を略した「一山」と号する。寺伝では天武天皇の発願により役小角が創建、一時荒廃していたが弘法大師空海により真言宗の三大道場のひとつとして修造された。

の宝亀年間(770〜781)にさかのぼる。当時、山部親王(のちの桓武天皇)が病氣となり、奈良興福寺の名僧賢璟(けんけいとも読む)らが室生山中で延寿

法を修したところ病氣が平癒、その縁で賢璟が室生山寺を創建、弟子の修円によってその基礎が固められた。

室生寺は長く法相宗の興福寺の支配下にあつたが、その一方で弘法大師信仰は地下水脈のように生きつづけた。江戸元禄期(1688〜1704)に興福寺から分離独立し、真言宗豊山派(総本山奈良・長谷寺)に属していたが、1964年(昭和39)、真言宗室生寺派を立てその大本山となった。

室生山地には奇岩怪石が多く、洞窟状態の穴は龍穴とよばれ、龍神信仰の源。室生寺はかつて龍王寺とよばれ、古代の水神信仰と深いつながりがある。

室生寺は鬱蒼とした山峡に不規則に堂塔が建ちならび、「弘法大師一夜造り」の伝承のある国宝五重塔(2000年に修復)は、日本最小の五重塔として優美な姿が喧伝されている。平安初期の金堂、鎌倉時代の灌頂堂(本堂)は



五重塔

総高16.1m  
 奈良~平安時代 国宝  
 細部の様式・手法から、奈良時代末か平安初期ごろに建立されたとみられる。屋根は檜皮葺きで、現存する古建築の五重塔の中ではもっとも小さい。塔心部の高さが初重の4.7倍もあり、ひじょうに細長い。屋根勾配の緩やかさや軒の深さで安定してみえる。この塔は、塔上の相輪部の九輪上方の、通常は水煙(すいえん)となる部分に宝瓶(ほうびょう)を置き、その上に宝蓋(ほうがい)がのせられており、他に例をみない。  
 写真/小川光三

ともに国宝。十一面観音・如意輪観音・弥勒菩薩・釈迦如来など国宝・重文の仏像が各堂に並び、ほかに仏具・曼荼羅・石像美術などの宝庫だ。

三重県境に近く交通はやや不便だが、大自然に抱かれたお寺は日本有数の優雅さと気品に満ち、拝観客の8割は女性。末寺は50か寺。

〈所在地〉

奈良県宇陀郡室生村室生78

〈交通〉

近鉄大阪線室生口大野駅から奈良交通バス15分、室生寺前下車、徒歩3分

※小学館「古寺をゆく」より

次回は唐招提寺



室生寺印

# 本堂納骨堂

## 親父暫く我慢

アズ動物病院(三鷹市)

院長 高橋 利仁

新しく本堂を建立し、地下に人も入れる納骨堂を造る話を何年前に聞き、親父を入れると即答したので覚えてます。6壺迄入れられ最後に入った方から32年三十三回忌迄供養しその後合祀する、何と素晴らしい事、これなら安心して預けられると全員一致。諸事情により先祖代々の墓に入れないので、色々模索していた所でした。この先墓を建てても私の子供たち

ちに墓守や墓じまい等精神的経済的負担等鑑みても納骨堂という結論は間違いないと自負しております。命日、彼岸、盆だから墓参りしなくっちゃという強迫観念で行っても意味がない、日頃からご先祖様に感謝する事が大切なんだと言いつけてました。

まだまだ先の事だが、受付開始時に場所確保して置けば何時でも入れると思っていた矢先、令和

4年10月25日、父が91歳で天寿を全うしました。受付は令和5年1月からとの事だったので、住み慣れた家で年越しし3月27日の誕生日に無事納骨しました。家族全員感動!

開業の頃から慈恵院さんを紹介するとお礼の言葉しか返ってきません。中には主人の時より立派だった!なんていう人も居ました。これって人間関係破綻?とと思ってしまった、獣医師は動物を治す事で飼い主さんを治すと思っていますが流石にこれは難しいですね。

何だかんだで32年、我が家の愛犬、愛猫、保護子猫、病院居候猫皆慈恵院さんでお世話になっております。親父が入った事でこれからは人もお世話になります。三十三回忌まで宜しくお願い申し上げます。

親父!一人で淋しいだろうけど、まだまだ迎えに来るな!お袋がそろそろ行こうかねっていうまで暫く我慢!





## アルフォソンの注射

杉並区 服部 壽子

「さあ、さあ、アルフォソ、お注射ですよ。」夕食後の片付けが終わった後の日課になった。

腎臓の数値が悪くなり、2年前くらい前からだろうか獣医さんより「自宅でリンゲル液の注射を」と言われた。猫の首の皮膚を持ち上げ、針を刺す。痛いだろう、刺す時には私の心もきゅつとなる。始めは週2回、それが3回となり毎日となり、液の量も増えて

いった。だんだん皮膚も硬くなり、針を通すの力があるようになる。日々弱つていき、痩せていく姿を見ながら、涙しながらの注射だった。

しかし、アルフォソはお利口に耐えた。歩けることが出来たうちは、「お注射よ」の私の声に、のそつ、のそつとやってきて、迎えに行かなくとも私の2mぐらい前できちんと座る。逃げなかった。

まるで「ママ、わかってるよ。僕のためになんだよね。」と言っているようで、その姿は実に健気だった。毎日2回薬も飲ませた。これは、僕ちよつと苦手、

というように毎回少し顔をそむけた。日本猫だからか、彼のカリカリ、猫缶以外の好物は「マグロ大トロ」、「海苔」と

「じゃこ」だった。因みにもう一匹の猫のブリティッシュショートの方は、「バター」、「ポテトサラダ」と「お肉」が好物でもしろいことに洋風。人間の食べ物は禁物だったのでもちろん積極的にはあげてなかったが、「こつそり盗みぐい」により判明した。アルフォソの最後のほうでは好きなものを、と思えば少しの海苔で包んであげていた。最初はとても喜んで

食べて？飲んで？いたが、それも1週間ほどで「薬が入ってるね」と気が付かれてしまった。

注射は死んだ最後の日にもした。どうしよう、弱っているのに、と迷ったが水分も取れてなかったので意を決して泣きながらの注射だった。その3時間後、約19歳でアルフォソ永眠。毎日痛い思いをさせてたね、よく頑張ったね、お利口だったよ、アルフォソ。

次回へつづく

